

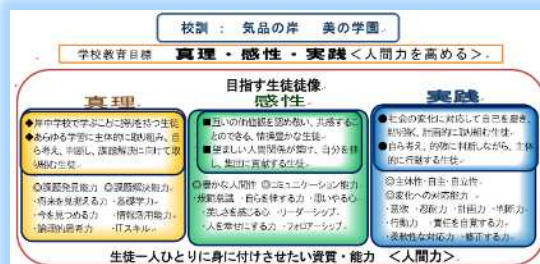
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では、SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立
岸中学校



■ 所在地：さいたま市南区南本町2丁目25番27号 ■ 電話：048-822-4022
■ FAX：048-835-1358 ■ 交通：JR 南浦和駅西口から線路沿い北へ徒歩約10分

01 ICT を活用した総合的な学習の時間



総合的な学習の時間（究めタイム）において、全学年がSDGsについて学習しています。17の



目標から各自が1つを選び、その実現に向けて自分がどのような貢献ができるか、どのように行動していくのかについて探求しています。探求した内容をまとめたり、ICT 機器を活用して発表したりして考えを共有し、さらなる探求につなげるなどの学習に取り組んでいます。

02 カナダとの国際交流



平成元年8月に幕を開け、30 数年間にわたり、国際教育の一環として、カナダのリッチモンド市の



の学校（マクロパーツ・マックマス校）との姉妹校交流を行ってきました。平成27年度からはラングレー市にある新設校のヨークソン・クリーク・ミドルスクール校との交流が始まりました。令和5年度からは、新たにサレー市にあるリージェントクリスチャンアカデミー校との国際交流活動を開始しています。

国際化の時代を迎え、岸中学校の生徒が世界に向かって堂々と渡りあえる人物になれるよう、今後もこの国際交流を発展させていきたいと考えています。

03 食育の推進



栄養教諭と各教科等が連携した授業において、バランスのよい日本型食生活（家庭科）、世界の食文化（特別活動）、食料自給率・地産地消（社

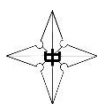
会科）、生活習慣病（保健体育）等の食育の取組を実践しています。このことから、健康寿命の延伸、食料自給率の向上、地球環境への負担軽減につながることを目指しています。また、給食委員会による「残食ゼロキャンペーン」を実施することにより、食品ロスの意識を高めています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では、SDGs教育を推進しています。



さいたま市立

南浦和中学校



本校は、「日に新た 心豊かに たくましく」を学校教育目標に、以下の6点を「学校経営方針」として教育活動に取り組んでいます。

- 1 全教職員が共通理解のもと、連帯感をもって教育活動を行う。
- 2 生徒の頑張る姿を認め、励まし、支え、その活躍を積極的に発信する。
- 3 保護者や地域との連携を密にして、よりよい信頼関係を築く。
- 4 学校生活に不安や悩みをもつ生徒・保護者の思いを、これまで以上に受け止め、寄り添い、誠実に対応する。
- 5 教育環境を整備し、安心・安全で心地よく学べる学校づくりを進める。
- 6 生徒が楽しく生き生きと活動することができ、教職員が働きがいをもって職務にあたることのできる学校を目指す。



■ 所在地：さいたま市南区辻 6-1-33 ■ 電話：048-863-0753
■ FAX：048-836-1589 ■ 交通：JR 埼京線・北戸田駅下車 徒歩 10 分

01 生徒一人ひとりが多様な幸せを実現するために



○南浦和中学校の「目指す学校像」に基づき、生徒一人ひとりの自己肯定感を高め、それぞれの自己実現に向けて、未来への歩みを進めることができるよう、教育活動を展開しています。その中で、生徒・家庭・地域の多様な幸せ【Well being】の実現を意識し、一人の大人として、歩みを進めることができる生徒の育成を目指します。



02 SDGsに係る意識や人権感覚を育む学校環境の整備と授業



- ① 生徒が意欲をもち、かつ集中して授業に取り組めるよう校内外の環境整備、美しい掲示物の作成に取り組んでいます。また、自分の思いや考えを端的に伝えられる生徒を育成するため、学習の「不易と流行」のベストミックスを目指し、生徒の「思考・判断・表現力」を伸ばすための授業を研究しています。
- ② 人権意識を高めるための「校内人権ラリー（掲示物）」、生徒会本部が中心となり、南中生が行った素晴らしい行動を全体に紹介する「南中ほめラジ」、実行委員や行事の代表を鼓舞するメッセージなど、事あるごとにメッセージを発信する取組を行っています。
- ③ 「総合的な学習の時間」を活用した SDGs の学習を行います。校外学習や館岩自然の教室、修学旅行の体験活動を通して、その地域の自然と歴史、文化や人物を調べ、体験をして学んだ内容を深める取組を行います。



03 SDGsの目標に迫る生徒会活動の推進

○ 生徒会活動方針 「有言実行 ～濃い日常を南中生に～」

* 委員会活動を通して、SDGsの目標に迫る取組を行います。

* 推進委員会を立ち上げ、保護者や地域向けにフォーラムを開催します。

- | | | | |
|--------|---------------|--------|--------------|
| ○生徒会本部 | 目標 10 16 17 * | ○学級委員会 | 目標 10 17 * |
| ○生活委員会 | 目標 10 16 | ○整美委員会 | 目標 6 11 * |
| ○体育委員会 | 目標 3 | ○給食委員会 | 目標 2 |
| ○図書委員会 | 目標 4 * | ○放送委員会 | 目標を達成するための広報 |
- (*…環境美化・掲示)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



さいたま市立
白幡中学校



本校は、学校教育目標に『主体的に学ぶ生徒 正しく判断できる生徒 心身を鍛える生徒』を掲げています。白幡中学校のグラウンドデザインを基に、新時代の教育に対応するために現代的な課題を取り入れながら、ICTの活用をしています。令和2年度より、総合的な学習の時間でSDGsを軸に、各学年・各教科・各領域にも結び付けて、学校全体でSDGsの取り組みをスタートした“行動の7年目”です。



■所在地：さいたま市南区白幡 2-1 8-1 3 ■電話：048—861-3203
■FAX：048—836-1587 ■交通：埼京線・武蔵野線 武蔵浦和駅 徒歩 7 分

01 “SDGs×STEAMs”～実社会で生きて働く力を～

今年度は、3年間かけて行っていく防災教育をより充実して行っていきます。

地震大国・日本に住む私たちは、常に災害と隣り合わせで生活しています。3.11の東日本大震災の記憶がない世代が、いかに“ジブンゴト化”するか。“圧倒的当事者意識”を持つためには、実際に経験する中で身に付けさせることは重要だと考えています。地域のコミュニティと交流しながら、身近な地域のフィールドワークをして、自分の目や鼻、耳など五感をフル活用して、子ども・大人・学校・家庭・地域のすべての人たちに生きて働く力が育つ取り組みをしていく予定です。1年生のフィールドワークを3年生が案内することで「教える人が最も学ぶ」ことをテーマに学びが学校の中で循環するようなカリキュラムを実践しています。

1・3年生のフィールドワークの様子 (R7)



02 “好きなことは続けられる”～ゼミナール学習～

昨年度、3年生では2年生から行っていたゼミ学習を

ゼミ発表会の劇の様子 (R7)



学校図書館とのコラボ



関連する目標のアイコンがついています

発展させて「15歳の本気の自由研究」を行いました。SDGsに探究学習の総まとめとして、多くの時間をかけながら、自分の探究テーマについて深掘りをしました。最後のまとめでは、多種多様な発表形式で、PowerPoint や実演、Web サイト、ゲームを考案したりと、創造力の豊かさを垣間見ることができました。学校図書館ともコラボして、少しずつSDGs教材や資料を蓄積しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では SDGs 教育を推進しています。



【目標とする生徒像】自立・共生・錬成

- ・自ら進んで学び、活力のある生徒
- ・気づき、考え、行動することができる生徒
- ・自他のために頑張れる生徒
- ・粘り強く目標の実現に向けて努力する生徒

■所在地：さいたま市南区大谷場 2-13-54 ■電話：048-882-9962
 ■FAX：048-811-1336 ■交通：JR南浦和駅徒歩 10 分

01 新たな標準服の決定に向けた取組



本校では、昨年度より生徒会本部役員を中心としたメンバーで新しい標準服（制服）について検討を進めてきました。学校の特徴を表すためのデザインや機能性はもちろん、ジェンダー平等の観点からも男女の垣根をなくした標準服のあり方などについて話し合いました。男子生徒はネクタイ・スラックス、女子生徒はリボン・スカートという固定概念を脱し、すべての生徒が自由に選択できるようにしました。これまでも女子生徒がスラックスを着用することはできましたが、男子生徒も選択の幅も広がりました。しかし、それ以上に、ジェンダー平等をベースに標準服のあり方について議論を進められたこと自体が意義のある取組だったと考えています。今後も、新たな標準服に込められたさまざまな思いを後輩たちに引き継いでいく活動をしていきたいと考えています。

02 健康教育講演会（思春期保健教室）の実施



本校では「自分と相手を大切にしたい自己決定能力の育成」を目指し、3年生を対象に健康教育講演会を実施しています。埼玉県助産師会などから講師をお招きし、思春期の生徒に妊娠出産や性感染症に関する正しい情報を伝え、性行動の低年齢化という現状を踏まえ、望まない妊娠を避け、自己決定できるための情報を得る機会としています。

事前アンケートによって意識づけをしてから講演会を行い、当日は真剣に耳を傾けています。また、事後アンケートでは、「自分の心と体をきちんと理解すること」「自分の気持ちに素直になること」「相手への思いやり」などが大切だということが分かったといった意見が見られました。この教室を通じて、SDGs の目標3「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に寄与していきたいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立

大谷口中学校



本校では、持続可能な生物多様性の取り組みに着目し、身近な問題に目を向けて取り組んでいく。生きていくことに必要な、衣・食・住は SDGs の環境・社会・経済と密接にリンクしていることを意識し、バランスよく考えられる柔軟な思考を鍛える。また、学級単位で目標を達成するためには、その目標を「自分ごと」として捉え、クラスで協働して取り組む必要があることを知り、学校全体で成果を確かめ合うことによって、社会参画意識への向上を目指す。



■所在地：さいたま市南区広ヶ谷戸 21

■電話：048-887-1000

■FAX：048-811-1335

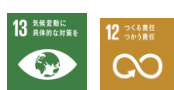
■交通：国際興業バス稲荷越バス停より徒歩 2 分

0 1 今地球に起きていることを知って自分から行動しよう



総合的な学習の時間で、まず知ることから始めよう！をテーマに、地球規模で起きている身近な問題に目を向け探求学習を行っていく。学習の充実を図るため図書資料や、ICT の活用を充実させていく。1 年生では、ゴールの目標 1 つ 1 つについてを学習していく。2 年生では、身近な問題をエシカル消費の視点（地球環境や、人、社会、地域に配慮した考え方）から学習する。3 年生では、さいたま市の SDGs の取り組みを学習し、地域に貢献できる活動を提案したり、自ら行動できる力を身に付けたりできるようにする。

0 2 給食の残食ゼロを目指そう



給食の食べ残しは、食品ロスのほかに CO2 排出量の問題や、フードマイレージ、バーチャルウォーター、ウォーターフットプリント、カーボンフットプリント、地産池消がいい理由など、私たちが生きていくことに様々なものや人がかかわってくることを消費者の視点から考えるエシカル消費を学習したうえで、「食べ残しの削減を目的とした食育・環境教育」を行っていく。

食品ロスは、すでに身近な問題である。大谷口中学校では、見える効果を期待し、自分たちの一口で、飢餓や貧困がなくなることを毎日の生活の中で意識付けしている。4 月から、すでに給食室での毎日の残食量を、放送委員がお昼の放送で全校生徒に発表し、残食ゼロを呼びかけている。生徒自らが、この運動から、どのような工夫で残食が減るのかを考え行動できるようにしたい。

0 3 ゴミの分別の徹底・ゴミを出さない考え方を持とう



学校から出るゴミの分別や、各家庭からリサイクルできる衣料品などを率先して回収し、自分たちの行っている行動が、未来の地球のためにどのような役割を果たすのかを学習し、実践していく。学校からのお知らせや、学習で使用する印刷物の削減や、資源を無駄にしない、ゴミを出さない工夫を教師自らが、ペーパーレス化・ICT の活用に移行していく。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さいたま市教育委員会では、SDGs 教育を推進しています。



さいたま市立
内谷中学校



〈学校教育目標〉 進んで学ぶ 心豊か たくましく

【目指す生徒像】

しなやかに、たくましく他者と協働して幸せを創造する生徒

【生徒につけさせたい3つの力】

- 困難を糧にする力
- 意思を持って行動する力
- 共に幸せを創る力



■所在地：さいたま市南区内谷 6-10-1

■電話：048-861-7571

■FAX：048-836-1586

■交通：JR 武蔵浦和駅 徒歩 15 分

01 「防災」を通した SDGs の取組



「防災」と私たちの住む地域は切っても切れない関係にある。毎日、平和に学校へ通い、安全な生活を送っている生徒も多い。多くの生徒が「災害」と聞くと、テレビの向こう側の出来事だと簡単にイメージするかもしれない。し

かし、「自分事としての防災」となるとどうだろうか？ハザードマップを確認し、具体的な生存戦略を考えながら生活をしている生徒は少ないように思える。ましてや、「SDGs」となるとその数はきっと数えるほどだろう。「防災」は災害大国である日本において、命に関わる重大な課題の1つである。荒川が近く、水害や地震時の液状化リスクがある内谷地区に住む中学生にとっても決して無関係な話題ではない。そこで本校の総合的な学習の時間のテーマとして「防災×SDGs～住み続けられるまちを目指して～」を設定した。まず、ハザードマップを解読して地域特有のリスクを把握し、災害から命を守るための生存戦略を自分事として模索していった。さらに、新聞紙スリッパの作成といった実践的な取り組みを通して生きた技術を身につけ、その体験から地域や家族の強みや防災上の課題を見つめ直した。この一連の探究活動を通して、将来「地域防災の担い手」として自分がどのような社会貢献ができるかを深めた。

02 「国際理解」を通した SDGs への取組



国際理解の学習では、他国の文化に目を向け、食・生活・衣服の視点から学びを深めた。他国の食文化に取り組み中で、郷土の食事との違いや食べ方、地産地

消など、地域ごとの特色に気付くことができた。また、環境や生活の様子、気候や風土の違いを知ることで、国や地域によって人々の生き方が異なることを理解することができた。さらに、他国の衣服に触れる学習を通して、地域に合わせた服装や風習、文化があることにも気付き、異なる文化を尊重しようとする姿が見られた。